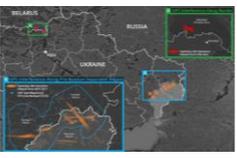
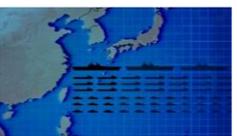


整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2022 -111	2022/7/29	U.S. Navy Declares IOC For Unmanned Influence Sweep System (UISS)	米海軍が無人感応掃海システム(UISS)がIOCになったと公表した	Naval News 2022/7/29	 10年近く開発に難儀してきた米海軍の対機雷戦ミッションパッケージがようやく初期運用段階に到達したようです。半潜水型の無人艇が要求性能を満たしていないとされ不採用になり、無人水上艇に方針変更して数年、これまで苦労を重ねたPEO関係者もさぞ安心したことでしょう。翻って我がFFMIに搭載する対機雷戦用USVとUUUはうまく運用できているのでしょうか？	佐々木司
2022 -112	2022/8/1	UPDATED: Carrier USS Ronald Reagan, F-35B Big Deck Operating Near Taiwan as Pelosi Arrives in Singapore; China Renews Threats	最新ニュース: ペロシがシンガポールに到着する中で、空母「ロナルド・レーガン」とF-35B搭載の強襲揚陸艦が台湾付近で作戦行動、中国も脅威を再燃	Naval News 2022/8/1	 ペロシ訪台で台湾周辺海域は一触即発です。	岩崎洋一
2022 -113	2022/7/22	Why isn't Russia doing more to jam GPS in Ukraine?	なぜロシアはウクライナでGPSをもっと妨害しないのか？	Defense News Opinion 2022/7/22	 ウクライナへのハイマース供与によって戦局が変わる可能性があります、ロシアが得意とするGPS妨害の運用がウクライナで低調なのは何故か？ という疑問に答える記事です。 ① ロシア自身のインフラがGPSを必要としている。 ② 真っ先に対ジャミング波ミサイルで妨害装置が無力化されるのを恐れている。 ③ ウクライナ軍の使う兵器がGPSに頼っていない物が多いので妨害する必要がない。 ④ ロシアは、きたるべき対米、対NATOとの戦争に備えて、能力を出し惜しみしている。 などと列挙しています。	岩崎洋一
2022 -114	2022/8/4	11 Chinese Ballistic Missiles Fired Near Taiwan, U.S. Embarks USS America From Japan	中国の弾道ミサイル11発が台湾近傍に射、米国は日本から「アメリカ」を出港させる	USNI News 2022/8/4	 米海軍は佐世保にいた強襲揚陸艦「アメリカ」も緊急出港させました。	岩崎洋一
2022 -115	2022/8/2	U.S. Navy's New NAVPLAN Calls For 150 Unmanned Ships By 2045	米海軍の新たなNAVPLAN(航海計画)では2045年までに150隻の無人艦艇を要求している	Naval News 2022/8/2	 米海軍が新たな戦力設計であるNAVPLAN2045を発表しました。有人艦艇数を75隻増やして373隻に加えて150隻の無人艦を要求します。この中に現在も建造しているLCSはなく、FFGIに置き換わります。掃海艦艇もなく、ようやく軌道に乗ったMCMミッションパッケージで行うようです。将来艦艇乗組員不足が必至となる我が海自においても無人艦の活用は不可欠です。	佐々木司
2022 -116	2022/7/1	Think Small to Win Big in the South China Sea	南シナ海で大きく勝つため小さく考える	Proceedings 2022/7/1	 決戦用の高価な艦を造るより、沿岸警備隊も含めて平時から現場で対峙できる多くの小型戦力を構築せよとハーバード大卒の少尉が言っています。孫子の兵法を活用する中国に対して、それに巻き込まれないようにせよ、という意味と捉えました。プロシーディングス誌7月号から。	岩崎洋一
2022 -117	2022/8/15	Navy Wants to Decommission 39 Warships in 2023	海軍は2023年度に39隻の軍艦を退役させることを望んでいる	USNI News 2022/8/15	 米海軍は2023年度に5隻の巡洋艦、9隻のLCSを含む、39隻の艦船を除籍させようとしています、議会はそれを拒む方針です。この中には、艦齢5年以下のLCSが7隻も含まれています。推進装置に関する設計思想上のミスも大きな要因ですが、運用要求に係る最初の計画を誤ると、こういう結果になります。軍艦設計は怖いです。	岩崎洋一
2022 -118	2022/8/16	U.S. Joins South Korea, Australia, Japan, Canada for Missile Defense Exercise Following RIMPAC	リムパックに続いて、米国は韓豪日加とミサイル防衛訓練を実施	USNI News 2022/8/16	 ハワイで米日韓豪加の5か国によるミサイル防空訓練が実施されています。装備上、米日豪の3か国のイージス艦でコモン・ピクチャーを共有した共同交戦能力を訓練したと考えられます。	岩崎洋一

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2022 -119	2022/8/16	Russia Reveals Radical New Stealth Missile Submarine	ロシアが斬新で新しいステルスミサイル潜水艦のペールを取る	Naval News 2022/8/16	 <p>ロシア艦船設計局が次世代SSBNの最新コンセプトを公表しました。従来型の原潜にはない斬新な設計です。船体形状はソーナー音を曲折させるよう傾斜構造となっており、非音響潜水艦探知システムを持つAUVを搭載し、母艦と連携して対潜戦を行うようです。紙上でのコンセプトは立派ですが、果たして実現するかどうか、著者は否定的な見解を持っているようです。</p>	佐々木司
2022 -120	2022/8/16	China deploys latest attack sub for a Taiwan standoff	中国、台湾との睨み合いに備え最新型攻撃潜水艦を配備	ASIA TIMES MILITARY 2022/8/16	  <p>本紹介記事からも、中国海軍の潜水艦整備計画は、明らかに通常動力型に力点を置いていると思われます。そして、その狙いが昨今の情勢からも、一層明確になってきたと思います。ウクライナの状況を見ると、地続きの恐ろしさを感じますが、77年前の日本敗戦を思い起こしますと、島国をも多くの弱点を有することは、自明の理であります。また、中国潜水艦技術の急速な進歩には目を見張るばかりです。ネットで見る事ができる研究文献だけからでも、熱心な研究が相当進められていることが容易に想像できます。この勢いを十分に認識する必要があります。また、本記事を通じて、相手の置かれている状況を正確に掴み、その意図を想像することの重要性を再認識させられました。</p>	本山泰之
2022 -121	2022/8/12	Six months on - lessons and impacts from the war in Ukraine	ウクライナ戦争から6カ月 - 教訓と影響	Navy Lookout 2022/8/12	  <p>ウクライナ戦争勃発から半年、英国の教訓です。今回の戦争は、エネルギー、食糧、無人機、対戦車ミサイル、巡航ミサイルなどが頻繁に語られますが、本記事から、武器備蓄量やサプライチェーンへの考えも、修正せざるを得なくなったと感じます。かつて、日本では「物量」に負けたと語ることも多々ありました。しかし、精密誘導兵器などの発達に伴い、特に西側で「量より質」、軍備は優秀な兵器を一定程度保有すれば可、という考えに変わってきたと思います。ところが、各国がその保有量が枯渇するほどに供与しても、戦争が終結しないことを目の当たりにし、やはり「物量」も大事と認識させられます。また、また、欧米は、信頼できるサプライチェーンを必要としていることもわかります。そこで、我が国の装備移転政策は、完成装備品で順調に推移しない段階では、当座は「信頼できるサプライチェーンの一角を担うに徹する」という方法論もこれあり、と思った次第です。</p>	本山泰之